

私は忘れません。真冬の朝、いつもと変わらず、家を出た、それが最後になってしまった悔しさと悲しさを。

私の祖母は、五年前に交通事故で亡くなりました。反対側に行こうと道路を横断していた時、車検証を車の床に落として拾おうとよそ見をしていた車にはねられました。児童クラブで、祖母が交通事故にあったと聞き、病院で、のどが痛くなるくらいさけんで、泣きました。いつも家に帰ると、私と弟が大好きな料理を作ってくれていました。その料理が突然食べられなくなる、もう会えなくなってしまうと思うと、頭が真っ白になりました。

車を運転していた方は、きっと、ちよっと前を見なくても大丈夫だろうと思い、車検証を拾ったのだと思います。ちよっとの油断が大きな事故をまねいてしまい、二度と取りもどせないものが失われてしまったのです。それは、事故を起こした人だけではありません。誰にだって、「ちよっとだけなら」と思い、気がゆるんでしまうことはあると思います。私も、朝はいつも余裕がなく、自転車での登校でつい、周りを見ずにスピードを出して走ったり、どうせ誰もいないからと油断してよそ見をしてしまったりしてしまいます。でも、それはすごく危険だと思いました。周りの車や自転車には危ないなと不満を持つこともあるのに、結局私も油断している、同じことをしていると思うと、はすかしく思いました。これで事故を起こしたらきっと、祖母が悲しんでしまいます。

ちよっと気を抜いても、必ず事故が起きるわけではありません。しかし、その積み重ねで、どんどん危険になっていきます。早く、楽に移動するために、自動車や自転車はとても便利です。でも、油断すると、思いがけない事故につながり、相手も自分も深い傷を負うことになります。そのようなことを少しでも少なくするために、自分のこと、周りのことを想像して、「かもしれない運転」を大切にしながら運転すべきだと思います。また、一人一人が責任を持って運転すべきだと思います。私の母は、ちよっとと自転車で出かけるときでも毎回のよう、「自分が悪くなくても、事故は起こるからね。」と言います。そのようなことをなくすためには、一人一人が、判断を間違えたと事故を起こしてしまうと意識して、責任と思いやりを持てるといいと思います。私も、これからは、時間に余裕を持って、周りに気をつかい、自分が事故にあうことも、事故を起こすことも絶対にないようにします。家族や、祖父、祖母に成長を見てもらうために。

最近ニュースでよく交通事故の話を目にします。その中ではケガがあまりひどくなくなったり命を落とすという様々なものがあります。このようなニュースを耳にするたびに心が痛みます。自分は大丈夫、自分はこの命は守るが、と考える人も多いと思います。でもその考えこそが自分の命や他人の命も奪いかねません。なのでつねに危険は身のまわりにあると意識しながら生活しなければなりません。危ないなと思う所は私の地域のまわりにもたくさんあります。視界が悪い道だったり曲がりくねった道などは車の衝突事故が多いです。そこで私達ができることは、視界が悪い道路ではいつもよりまわりをよく見ること、車の速度をおとす事、曲がりくねった道では向こうから来る車をよく見るといったりするごくあたり前の事です。言い換えれば誰でもできる事です。少しの注意や意識するだけで自分の命と他人の命を守ることが出来ます。

交通事故は車だけでなく自転車での事故も多いです。自転車は車じゃないから大丈夫といったら全く違います。自転車は車と同じです。歩行者優先の道路では歩行者が優先です。交通ルールをしっかり守る事も大切です。

最近スマホを持つ人が増えてきました。歩きスマホやながらスマホも事故をおこす原因になってしまっています。

命は一人一つ、なくしてはいけなく、簡単に失ってはいけなく物です。一人一人の少しの意識だけでたくさんの尊い命が助かります。私も歩きスマホに注意したり、横断歩道や道を渡る時は左右を確認して渡ったりと、少しの注意を意識しながら生活していきたいと思っています。家族の中にもながらスマホをしていたり不注意のままの運転をしていたらしっかり注意して大切な命を守っていきましょう。

他にも自分の地域に危険な場所はないか、どうなったらどのような事故がおこるのかを考えながら自分のできる事を考えていきたいです。あとは、子供は大人を見て成長するので、小さい子のお手本になれるように生活していきたいです。

南達交通安全新聞

年末年始の交通事故防止県民総ぐるみ運動

運動期間 令和4年12月10日(土)～

令和5年1月7日(土)までの29日間

運動スローガン 「くらいとき じぶんをアピール ぴっかぴか」

運動重点

- (1) 道路横断中の交通事故防止(特に、高齢歩行者の保護の推進)
- (2) 夕暮れ時や夜間の交通事故防止
- (3) 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- (4) 飲酒運転の根絶
- (5) 自転車の交通事故防止と適正な利用の推進



第33回 南達交通安全大会

南達一市一村にあっては、交通量が増加しており、これに伴い交通事故の発生も増加する可能性があります。

さらに、高齢化社会を迎え、全国的にもお年寄りの犠牲者があとを絶たないことから、事故防止のための抜本的対策を講じる必要性に迫られています。

本大会は、このような情勢をふまえ、南達一市一村が一丸となって総合的な交通事故防止対策を推進することを目的とし、令和4年11月12日(土)に大玉村立大玉中学校の体育館で開催されました。

大会では、交通安全功労者や地域別交通事故防止コンクールの受賞者に、賞状等が贈られたほか、交通安全作文コンクールで最優秀賞を受賞した子ども達が作文の発表を行いました。



～南達交通安全大会の様子～



～受賞者代表謝辞を述べる 日下部 剛さん～



～交通安全功労者表彰を受ける 国分 真一さん～

◎表彰状伝達

東北管区警察局長・

東北交通安全協会会長連名表彰

【交通安全功労者】

日下部 剛（大玉村）

【優良運転者】

菅野 健二（本宮市）

【交通安全功労団体】

川名建設工業株式会社
（本宮市）

交通安全誉章（緑十字銅章）

【交通安全功労者】

国分 真一（本宮市）

【優良安全運転管理者】

紺野 秀樹（本宮市）

【優良運転者】

渡邊 智（本宮市）

鈴木 勝久（本宮市）

◎交通安全作文コンクール

応募総数335点

【小学生低学年の部】

最優秀賞 本宮まゆみ小学校

優秀賞 本宮小学校

佳作 岩根小学校

糖沢小学校

岩根小学校

2年

3年

3年

増子 蓮汰

橋本 愛希

石橋 諒大

次藤 うみ

近内 快衣

本多 結菜

近内 千夏

矢崎 友里

佐久間玲乃

佐藤 玲菜

石川 直生

石川 紗生

渡邊 遥香

本宮まゆみ小学校 3年

本宮小学校 6年

糖沢小学校 6年

大山小学校 6年

本宮小学校 4年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年

本宮高等学校 1年



【小学生低学年の部】
本宮まゆみ小学校 3年
次藤 うみさん



【小学生高学年の部】
本宮まゆみ小学校 4年
本多 結菜さん



【中学生の部】
大玉中学校 1年
矢崎 友里さん



【一般の部】
本宮高等学校 1年
石川 直生さん

交通安全作文コンクール最優秀賞作文を発表する受賞者の皆さん

小学生低学年の部

【最優秀賞】

『交通事故をなくすために』

本宮まゆみ小学校3年

次藤 うみ

わたしは、学校の帰り、お母さんの車にのって帰ります。お母さんの車のスピードがおそくなったので、

「どうしたの？」

と聞きました。そしたら

「小学生がたくさん歩いているから、いつでも止まれるようにだよ。」

と言いました。

わたしたちの気をつけることが三つあります。

一つ目は、一列つになって歩くことです。学校帰り友だちが横に広がって歩いているすがたをよく見かけます。歩道のない道では、車がとても近くを通っていきます。とてもきけんだと思います。

二つ目は、横たん歩道は、きちんと右左をかくにんしてからわたることです。横たん歩道をわたっているときに車がつっこんできて小学生の子が死んでしまったというニュースを見たことがあります。信号が青でもしっかりと右左をかくにんして、きゆうにとび出したりしないで横たん歩道をわたりたいと思いました。

三つ目は、自てん車にのるときは、ヘルメットをかぶることです。いつころぶかわからないからとてもきけんだと思います。わたしは、だいいょうぶでは、なく、きちんとヘルメットをかぶり、ルールをまもつてのりたいと思います。

さいごにおねがいしたいことがあります。車を運てんするときに、スマホを見ないでください。お酒を飲んだら

車をうてんしないでください。信号が青でもわたしたちがいなかすこし見てください。わたしたちも道を歩くとき、自てん車にのるとき、気をつけます。だから、車を運てんするみなさん、わたしたちを見てください。そして、少しやさしい気もちで運てんしてください。交通事故がすこしでもなくなることをみんなで気をつけて生活しましょう。

小学生高学年の部

【最優秀賞】

『弟を、家族を守りたい』

本宮まゆみ小学校4年

本多 結菜

「止まって、手を上げて、右見て、左見て、また右を見て、よし行こう。青信でも車が来るかもしれないと思って渡ろうね。」ここは交差点、私はお母さんと弟と一緒に交差点を渡っています。

二コースで、登下校中の列に車が突っ込み巻き込まれる事故がありました。車は便利ですが、人がそう作出来ない車はとても怖い物に変わってしまいました。お父さんに聞いたら、最近だと会社でアルコールをチェックするようにほりつが変わったと言っていました。周りの社会が私たちを守ろうと動いてくれています。交通事故がへることで、安心して学校に通うことが出来ます。

だけど、事故が無くなるわけではありません。そのために、私たちが出来る事は、何かと考えました。通学路は危険な場所があります。交差点、横断歩道、交通量が多い道やせまい道、見通しが悪い道などたくさんあります。このような道では「車が来るかもしれない、私たちに気付いていないかもしれない。」と、私たち歩行者も運転手と同じように交通事故に注意しながら歩く必要があります。また、運転手からは、私たちは小さくて見つけづらく、気付いてもらいやすい色の服そうなどで、自分たちの存在をアピールした方が良いと思います。

交通事故の中でも、私たちが子供は夕方の道路での交通事故が多いそうです。次に、駐車場が多いということです。その中でも特に、小学一年生の男の子が大きな事故になる場合が多いそうです。私の弟は、今年小学一年生になりました。言うことを聞かないし、落ち着きがなかったり下を向いて歩きます。

「弟が事故にあったら。」「いなくなってしまうたら。」と、いつも心配です。私は弟に、道路がとても危険なことを教えようと思いました。

私はお母さんと、弟を連れて一緒に通学路を歩きました。道を渡るときは、「止まって、手を上げて、右見て、左見て、また右を見て、よし行こう。青信号でも、車が来るかもしれないと思って渡ろうね。」と、弟に教えました。しかし、時間が経つと、忘れてしまいます。また、一緒に歩き教えてあげたいと思います。

交通事故は、全国で一分間に一件起きているそうです。今、このときにも、どこかで、誰かが交通事故にあっています。つらく悲しい思いをしているはず。私は、私たち家族に、そんな悲しい思いをさせたくありません。そのために、交通ルールを守ること、「くかもしれない、くだろう」と思い、思わせる事が大切だと思います。「弟を守りたい、家族を守りたい」と思って、今日も学校へ行ってきます。